キャラクター名: ツィツィー

プレイヤー名:

種族	エルフ	種族特徴	暗視、剣の加護/優しき水		
生まれ	神官	性別	女	年齢	15
冒険者Lv	2	経歴	目標としている人がいる		
経験点	500		師と呼べる人物がいる		
			物心がついた時には独りだった		

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	9	器用度	6			15	2
		敏捷度	6			15	2
体	5	筋力	2			7	1
		生命力	4			9	1
心	12	知力	9			21	3
		精神力	8			20	3

技能	Lv.	技能	Lv.
プリースト	2		
セージ	1		

技能

	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本追加ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾

		ランク	必要筋力	回避力	防護点
鎧	ソフトレザー		7		3
盾					
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能			合計値	0	3

武器

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				2d+													
				2d+													
				2d+													

一般装備品 (消耗チェック)

冒険者セット	○□□○□□
着替えセット	○□□○□□
保存食（1週間分）	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□

	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□

所持金 850 G

預金・借金 G

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	15 m	45 m

回避	防護点
2d+ 0	3

HP
15

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 4	2d+ 0

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 3	2d+ 5

MP
26

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
神聖魔法	2	5			

戦闘特技

魔法拡大/数	1-289p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p

言語	会話	読文
エルフ語	○	○
交易共通語	○	○
神紀文明語		○

装備品	説明
頭	
耳	
顔	
首 聖印	
背中	
右手	
腰	
足	
その他	

装備品	説明
左手	

練技/呪歌/騎芸/賦術

名誉アイテム	点数

名誉点 所持 0 /合計 0

その他メモ

家族や一族がどこに行ったのか、今も生きているのさえわからなかった。物心がついたころには独りだったから。そして昔の記憶がなくなっていた。どうして思い出せないのか考えても考えてもわからなかった。覚えていることといえば、ツィツィーという名と空に広がったオーロラ。幼いながらもこれだけは心に深くのこっていた。なにも宛てがない中、オーロラを追いかけて歩く。歩き続けて途方に暮れていたところ、一人の女性に出会った。彼女は’’ハルーラ’’という’’導きの星神’’を信仰していて、私を’’家族’’の中に招き入れてくれた。’’家族’’というのは私のような親のいない子どもたちや行く当てのない人たちの集団だ。夜にみんなでハルーラ様にお祈りを捧げるのが日課である。ここでは、ハルーラ様や他の神たち、そして魔法の使い方などたくさんのことを学んだ。ハルーラ様はどうやらオーロラと関係が深いらしい。あの昔に見たオーロラもハルーラ様のお導きだったのだろうか。

15歳になり、エルフの種族では成人となった。大人になったのだから、いつまでも彼女のお世話になりっぱなしというわけにはいかなかった。自分で稼いで生きていくすべを持つ必要があった。そしてなにより自分の本当の家族や一族が気になっていた。体は少し弱く、一人だと探しに行くのが不安だったが、冒険者だったらパーティーを組み、家族や一族の捜索とお金稼ぎの両立ができるため、冒険者を志願したのだった。

自動失敗チェック

□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑮
□□□□⑳
□□□□㉕
□□□□㉚
□□□□㉟